

第159期

「オンライン+集合」開催

2026/6/10(水)～2027/1/15(金)



〈本講座の特色〉

- 企業の物流・ロジスティクスから全体最適を実現するスペシャリストを育成します。
- 実務経験豊富な講師陣の指導の下、専門知識のみならず実務への応用についても学ぶことができます。
- 各講義に、講義内容のポイントを確認する時間を設け、目的意識を醸成します。
- ケーススタディを含めた個人演習やグループ演習を通じ、実践力の強化を図ります。
- 受講レポートや論文の作成を通じて、今後自社で取り組むべき課題や改善施策を検討します。

〈「オンライン+集合」開催の特色〉

- 座学や個人演習はオンライン(※)によるリアルタイム(ライブ)での講義となります。投票やチャットを使用した質疑応答を行う等、ライブならではの臨場感のある講義を行います。
- グループ演習は集合型にて実施します。同じ会場で協力しながら進めるグループ演習を通じて、企業や業種の垣根を越え、講座終了後も途切れない深いヒューマンネットワークを構築いただけます。

※ビデオ会議ツールの「Zoom」を利用した講義となります。ご受講に際しては適切な通信環境の確保、デバイスの準備、アプリケーションのインストール等が必要になります。詳細は受講申込規程をご覧ください。

第159期 物流技術管理士資格認定講座

開催にあたって

国内外の経済・社会環境は不確実性を増しており、地政学リスクの高まりを背景に、グローバルサプライチェーンの安定性と効率性が揺らぐなか、企業にはより広い視野に立ったリスク管理が求められています。

国内に目を向けると、人口減少と労働力不足が深刻化しており、物流の持続性確保が大きな経営課題となっています。デジタル技術や自動化の導入、業務プロセスの革新による生産性向上への取り組みが欠かせません。

さらに、昨年施行された改正物流関連二法をはじめ、トラックドライバーの労働環境改善と物流効率化の両立に向けた取り組みが本格化しています。2026年4月以降、特定荷主と特定連鎖事業者者に物流統括管理者の設置が義務化され、持続可能な物流の実現に向けた法令遵守が求められているところです。

このような企業経営を取り巻く環境変化や諸課題に適切に対処するためには、サプライチェーン上の各プレイヤーが連携・協働し、物流・ロジスティクスの効率化や高度化を推進していく必要があります。その強力な推進役として、ロジスティクスの視点から、物流の全領域にわたる専門知識や管理技術を有したスペシャリストの存在が欠かせません。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、物流・ロジスティクスのスペシャリスト育成の場として「物流技術管理士資格認定講座」を30年以上にわたり時代の要請に応じ、内容を改訂しながら開催しております。

本講座では実務経験豊かな講師陣による解説を通して物流・ロジスティクスに関する体系的かつ具体的な知識と技法等を学んでいただくだけでなく、個人・グループ演習によって応用力、実践力の強化を図るとともに受講者相互のヒューマンネットワークの構築を支援いたします。これまで13,000名を超える物流技術管理士が誕生し、各方面で活躍しております。貴社の企業価値向上に寄与する人材を育成するために、ぜひ本講座を積極的に活用されることを期待しております。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
物流技術管理士専門委員会 委員長
成蹊大学 名誉教授
渡邊 一衛



物流技術管理士とは

「物流技術管理士」は、ロジスティクスの視点をふまえ、全体最適の実現を目指して、社内外の関係者と連携しながら物流に関する様々な知識や技法を活用し、物流の計画・管理・運営を通して物流の効率や品質の最適化を推進できる人材です。

【物流技術管理士のあるべき姿】

- ① 現状把握と課題認識力
環境変化を踏まえ、多様な視点から現状を体系的かつ多面的に把握し、目指すべき姿とのギャップから本質的な課題を発見・認識できる。
- ② 課題解決に向けた計画力
発見・認識した課題に対し、物流の全領域にわたる専門知識・管理技術を活用して、具体的な解決策を計画・立案できる。
- ③ 関係者との連携による提案と実行
荷主・物流子会社・物流事業者・協力会社・社内関連部門など、様々な関係者と協力体制を構築し、合意形成を図りながら、課題解決策や改善案を提案・実行できる。
- ④ 課題解決策の結果に対する評価・改善力
実行した課題解決の結果や内容について、評価・検証し、さらなる改善提案を行うことができる。
- ⑤ ロジスティクスの視点による新たな価値の創造力
ロジスティクスの視点から、物流の効率化・生産性向上に限らず、顧客満足度の向上や、環境負荷低減といった社会課題解決への貢献等、非財務指標に係る企業の新しい価値を生み出すことができる。

▶ 企業における物流技術管理士の役割

荷主企業（製造業、流通業）

- ・ QCD（品質、コスト、納期）の観点から最適な物流ネットワークを設計することができる。
- ・ 自社内の関係部門や他社と連携し、物流コスト削減や在庫の適正化を推進できる。
- ・ 提案依頼書（RFP）を作成し、物流業務の委託先（パートナー）の選定、評価ができる。

物流企業（物流子会社、物流事業者）

- ・ QCD（品質、コスト、納期）に係る定量的な指標を用いて、物流業務を管理することができる。
- ・ 全体最適の視点から業務に取り組み、コスト削減、品質・生産性向上を推進できる。
- ・ 荷主企業の物流実態を適切に分析し、問題点を把握したうえで、適切な品質・コストを踏まえたソリューションを立案、提案することができる。

その他（情報システム業、人材派遣業等）

- ・ コスト削減や品質向上等、顧客企業の物流・ロジスティクスにおけるニーズに的確に対応した製品やサービスを提供することができる。
- ・ 顧客企業の物流・ロジスティクスの実態を分析し、問題解決につながる施策において、新たなサービスや製品を企画・開発することができる。

2026年度物流技術管理士資格認定講座開催日程

単元	第159期東京 (オンラインLive+集合形式)	第160期大阪・名古屋 (オンラインLive+集合形式)		第161期東京 (集合形式)
		大阪	名古屋	
プレミーティング (グループ演習)	2026年6月10日(水)	2026年7月8日(水)	2026年7月15日(水)	2026年9月2日(水)
	2026年6月11日(木)	2026年7月9日(木)	2026年7月16日(木)	2026年9月3日(木)
第1単元	2026年6月19日(金)	2026年7月28日(火)		2026年9月9日(水)
第2単元	2026年6月22日(月)	2026年7月29日(水)		2026年9月10日(木)
第3単元	2026年7月7日(火)	2026年8月6日(木)		2026年9月29日(火)
	2026年7月8日(水)	2026年8月7日(金)		2026年9月30日(水)
第4単元	2026年7月22日(水)	2026年8月25日(火)		2026年10月15日(木)
	2026年7月23日(木)	2026年8月26日(水)		2026年10月16日(金)
第5-6単元	2026年8月4日(火)	2026年9月16日(水)		2026年11月5日(木)
第6単元	2026年8月5日(水)	2026年9月17日(木)		2026年11月6日(金)
第7単元 (グループ演習)	2026年8月19日(水)	2026年10月5日(月)		2026年11月17日(火)
	2026年8月20日(木)	2026年10月6日(火)		2026年11月18日(水)
第8単元	2026年9月3日(木)	2026年10月21日(水)		2026年12月2日(水)
第9-10単元	2026年9月7日(月)	2026年10月22日(木)		2026年12月3日(木)
第11単元	2026年9月15日(火)	2026年10月27日(火)		2026年12月16日(水)
第12単元	2026年9月16日(水)	2026年10月28日(水)		2026年12月17日(木)
第13単元 (グループ演習)	2026年10月7日(水)			2026年11月18日(水)
	2026年10月8日(木)			2026年11月19日(木)
面接	2026年11月14日(土)	2026年12月12日(土)		2027年2月13日(土)
授与式	2027年1月15日(金)	2027年1月22日(金)		2027年3月12日(金)

※第159期ではグループ演習を実施する単元(上記の黄色網掛け:プレミーティング、第7単元、第13単元)につきましては、東京都内の講義会場で集合形式にて実施予定です。

※第160期ではグループ演習を実施する単元につきましては以下の地域の講義会場で集合形式にて実施予定です。

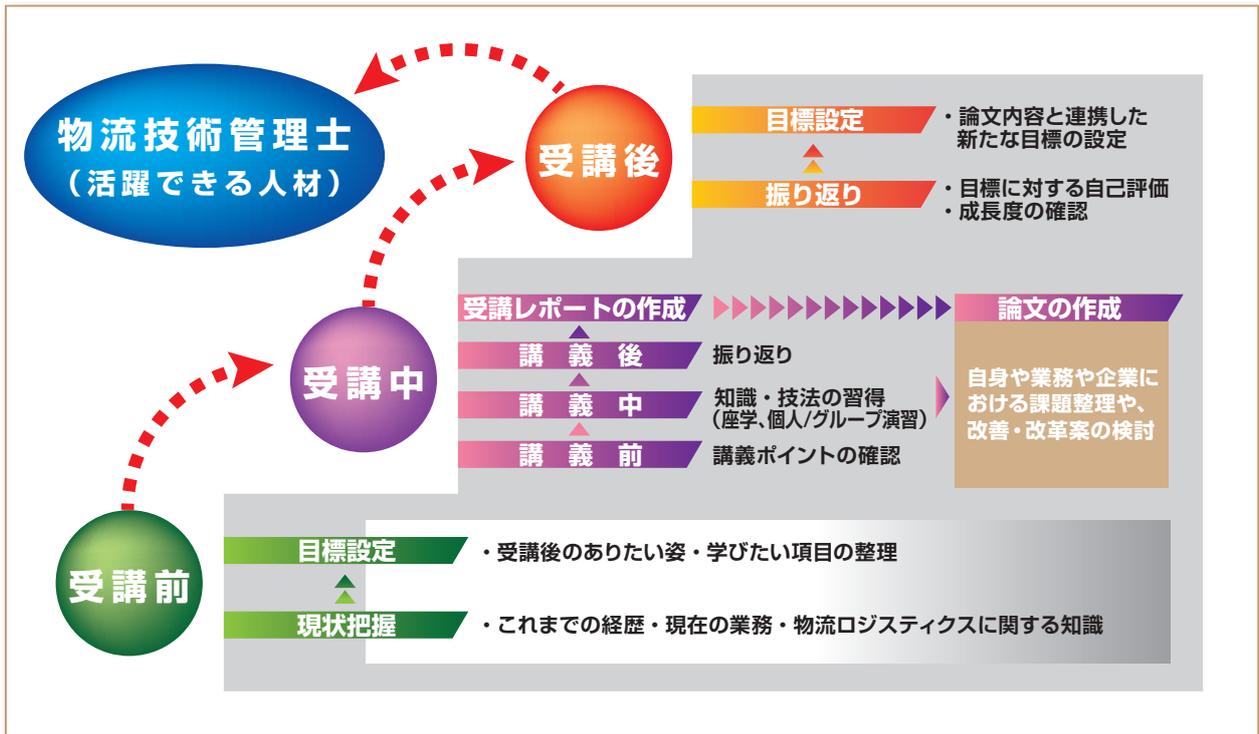
【プレミーティング:大阪もしくは名古屋、第7単元:大阪、第13単元:名古屋】プレミーティングの講義会場は開講前にどちらか選択いただけます。

※第161期では、講義や試験の実施はすべて講義会場でおこなう集合形式にて実施予定です。

※諸事情により、日程及び開催形式などは変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

より実務で成果を出していただくために

本講座では、受講者の方が受講前から受講後に至るまで、常に高い目的意識を持ちながら受講し、「自分が掲げた目標を達成する」、「受講後に多方面で活躍できる人材に成長する」等の実現に向けた、仕組みを導入しています。



●カリキュラムの特徴

実務経験豊富な講師陣から学んだ知識や技法を実務で応用するために、「自分自身やメンバー同士で考える」グループ演習、個人演習等を取り入れています。

資格認定について

- 出席要件について：全講義日数18日のうち、14日以上出席すること。
- レポートについて：前期・後期2回の受講レポートを提出すること。
- 試験について：①客観試験・②論文試験・③面接試験それぞれの得点が合格基準点（6割以上）を満たし、総合得点が60点以上であること。

①客観試験

客観試験とは、講座で学んだ内容の習熟度を測るために実施する筆記試験です。前期・後期の2回に分けて実施されます。試験問題は、講義で学習したポイントとなる内容を中心に、正誤問題、選択問題、穴埋め問題、計算問題等の形式で出題されます。

②論文試験

講座で学んだ内容を活用しながら、5,000字～6,000字の論文を作成します。論文のテーマは自身の業務や企業における改善や改革に関するものとなります。物流・ロジスティクスの全般知識に加えて、第三者の理解を得るための論理的思考力や文章作成力が問われます。また開催期ごとに優れた論文を選定し、優秀論文として表彰を行っています。

③面接試験

作成した論文の内容について、第一線で活躍されている企業人、学識経験者、コンサルタントの方々で構成される物流技術管理士専門委員会の委員2名との面接試験を行います。面接試験では、自身の作成した論文を第三者への確に説明し、質問に分かりやすく回答するプレゼンテーション能力が問われるとともに、質疑応答を通じて講義内容を踏まえた物流・ロジスティクスの理解度が確認されます。

【各試験の配点 (括弧内は合格基準点)】

客観試験	論文試験	面接試験	減点	総合得点
前期・後期合計 30点満点 (18点以上)	+	40点満点 (24点以上)	+	30点満点 (18点以上)
			-	①欠席減点 ②受講レポート 提出遅延減点
				= 100点満点 (60点以上)

第159期物流技術管理士資格認定講座 カリキュラム

プレミーティング (集合研修)

講座初回の講義となるプレミーティングでは演習を通じて、問題発見、課題抽出及び課題解決技法について学ぶとともに、受講者間のヒューマンネットワークの構築を図ります。

会場：タイム24ビル（東京都江東区）

日時	講義名称	講義内容	講師
6月10日(水)	9:30-18:00 開講式 オリエンテーション グループ演習 問題の発見と解決	オリエンテーションでは、講座の進め方、資格認定規程、論文試験のテーマ等をご説明します	中野 昭男 氏 のぞみ経営研究所 代表 (第21期物流技術管理士) 右田 政三 氏 (株)ヨコタエンタープライズ 顧問
	18:30-20:00 ◆懇親会(予定)	様々な手法を用い、問題の発見と現状の把握、要因解析、対策の立案までの進め方と学び、実務で活用いただくことを狙いとしております	
6月11日(木)	9:30-17:00 グループ演習 問題の発見と解決、発表・講評		
	17:00-17:20 振り返りと意見交換 〈プレミーティング〉		

第1單元 (オンライン)

経営とロジスティクス

企業の経営環境が大きく変化中、ロジスティクスのさらなる高度化が求められております。本單元では、経営の視点から、ロジスティクスの役割、顧客サービスの考え方及び情報システムの役割・機能等について学びます。

日時	講義名称	講義内容	講師
6月19日(金)	9:30-12:40 1. 企業価値を高める ロジスティクスの役割	物流・ロジスティクスの定義と進化及び重要性、企業価値の向上とロジスティクス活動の関係 等	飯田 正幸 氏 日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー
	13:40-15:10 2. ロジスティクスにおける 顧客サービス	企業活動における顧客サービスとは、ロジスティクスにおける顧客サービス項目、これからの顧客サービスの方向性 等	
	15:20-17:40 3. ロジスティクス戦略	これからの経営戦略方向、ロジスティクス改革を実現する視点、ネットワーク再構築における狙いと目的、事例 等	(株)日本能率協会コンサルティング
	15:20-17:40 4. ロジスティクス IT 概論	IT 活用の現状・取り組み状況 (IoT、ビッグデータ等)、情報システムの役割、情報システム化のポイント、DXとは、ロジスティクス・物流における DX のあり方 等	秋葉 淳一 氏 (株)プレムワークス 会長

第2單元 (オンライン)

物流コスト管理

物流コスト管理は本講座における重要なテーマであり、物流・ロジスティクスの全領域に関わるものです。物流コスト管理全般の知識や物流ABCについて学び、以降の講義にコスト意識も持って臨んでいただきます。

日時	講義名称	講義内容	講師
6月22日(月)	9:30-13:00 1. 物流コスト管理概論	なぜ物流コストを把握するのか、物流コストの実態、KPI、物流コストの算定、演習問題 等	藤田 浩二 氏 センサーグループホールディングス(株)専務執行役員 兼 ロジ・ソリューション(株)取締役会長 (第25期物流士)
	14:00-17:00 2. 物流ABCの活用	物流ABCとは、物流ABC活用法 等	
	17:00-17:20 振り返りと意見交換 〈第1・2單元〉		岡田 和典 氏 岡田ビジネスディベロップメンツ ファウンダー (株)ZOO LABO 代表取締役社長

第3單元 (オンライン)

物流拠点管理

物流拠点はロジスティクス戦略を決定する重要な役割を果たします。本單元では、物流拠点の実践的な管理技法や機器、システムについて学ぶとともに、物流拠点配置や庫内レイアウトの考え方を演習で学びます。

日時	講義名称	講義内容	講師
7月7日(火)	9:30-12:30 1. 保管・荷役とマテハン機器	保管・荷役の機能、倉庫の種類、保管・荷役コスト、保管・荷役における改善のポイント、物流拠点における安全管理 等	柳生 治男 氏 鈴木(株)ロジスティクス事業本部 3PL事業推進室 室長
	13:30-15:30 2. 物流拠点におけるIT活用	拠点情報システムの役割と目的、導入プロセスとポイント、これからのWMSに求められる機能、物流拠点管理におけるDX 等	
	15:40-18:00 3. 生産性と品質管理	物流プロセスにおける生産性・品質KPI、生産性向上の基本的考え方、多能工化のための教育 等	吉井 太一 氏 (株)プレムワークス セールス&マーケティングセクションセクションマネージャー (第119期物流技術管理士)
7月8日(水)	9:30-17:00 個人演習 4. 物流拠点管理演習	物流拠点の役割・機能、流通チャネルと拠点配置、事例紹介、拠点・レイアウト設計演習 等	酒井 路朗 氏 エルディーシー研究所 所長
	17:00-17:20 振り返りと意見交換 〈第3單元〉		

第4單元 (オンライン)		輸配送管理		
本單元では輸配送管理に係わる各輸送モード、運賃体系、関連法規制、運行管理等や輸配送における最新 IT システムについて学んだ後、個人演習を通じて共同配送による効果の算出方法や輸配送システムの構築の考え方について学びます。				
日時	講義名称	講義内容	講師	
7月22日(水)	9:30-14:50	1. 輸配送管理概論	輸送モードの特徴、物流の共同化、モーダルシフト、運賃・料金体系、輸送関連の法制度 等	興村 徹 氏 日本ロジスティクスシステム協会 JILS アドバイザー
	15:00-17:30	2. 輸配送における IT 活用	輸送モード別 IT 活用の概要、支援技術、配車管理・運行管理・動態管理、輸配送における DX 等	菊谷 勝利 氏 (同) アイスタイル 代表 (第 82 期物流技術管理士)
7月23日(木)	9:30-16:30	個人演習 3. 輸配送システムの構築演習	輸配送システム構築のポイント、共同輸配送、クロスドッキング 等	中谷 祐治 氏 ロジ・ソリューション(株) 取締役 経営戦略担当
	16:30-16:50	振り返りと意見交換 <第4單元>		

第5單元 (オンライン)		包装技術		
包装は、サプライチェーン全体に深く関わっています。本單元では包装の目的や機能といった基本からロジスティクスにおける包装のあり方等幅広く学びます。				
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月4日(火)	9:30-12:30	1. 包装技術概論	包装の機能と役割、包装起因の主要コスト要素、物流改善技法/デザイン・フォー・ロジスティクス 等	野々山 和行 氏 野々山技術士事務所

第6單元 (オンライン)		物流現場改善		
物流業務の現状把握・分析・評価・改善をするためには、科学的管理技法の活用が有効です。本單元では、VA、IE、OR、QC といった科学的管理技法の基礎や物流現場における実践的な改善技法について、講義や演習を通じて学びます。				
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月4日(火)	13:30-17:30	1. 科学的管理技法概論	管理技術とは、科学的管理技法 (VA、IE、OR、QC) 等	渡邊 一衛 氏 成蹊大学 名誉教授
	17:30-18:00	論文作成のポイント	講座初日のオリエンテーション時に出題した論文試験について、審査のポイントや良い論文例の説明を行います	
8月5日(水)	9:30-16:30	グループ演習 2. 物流現場の改善技法	「問題」を知る、分析手法 (稼働分析、ワークサンプリング、R-f 分析等)、物流改善の技法、改善事例 等	(株)日本能率協会コンサルティング
	16:30-17:10	論文の作成に関する説明	論文の作成要領の再確認や注意すべきポイントの説明等を行います	事務局
	17:10-17:30	振り返りと意見交換 <第5・6單元>		

第7單元 (集合研修)		総合演習 I		
架空企業の物流現場における輸配送や荷役作業、在庫管理等様々な問題点を分析し、改善策を検討することで業務改善や課題解決に取り組む際の実践力の強化を目指します。				
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月19日(水)	9:30-10:30	前期客観試験	前半講義 (第 1 ~ 第 6 單元) の講義の理解度を確認します	事務局
	11:00-17:30	グループ演習	架空企業の物流現場における、輸配送・在庫・荷役作業の問題点の整理や課題抽出等を行います	(株)日本能率協会コンサルティング
8月20日(木)	9:30-17:00	物流改善演習		
	17:00-17:20	振り返りと意見交換 <第7單元>		

会場：タイム24ビル (東京都江東区)

第8單元 (オンライン)		在庫管理とSCM		商品ライフサイクルの短縮化やサプライチェーンのグローバル化に伴い、企業経営における在庫管理の重要性は高まっています。本單元では、在庫管理やSCMについて、理論と実践の両面から学びます。			
日時		講義名称		講義内容		講師	
9月3日(木)	9:30-12:00	1. 在庫管理とSCM概論		競争力強化・収益最大化に向けたオペレーションマネジメントとは、在庫管理、制約条件の理論と全体最適化指向等		鈴木 定省 氏 横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授	
	13:00-16:00	2. 在庫管理の実務		在庫管理とは何をすることか、適正在庫を維持する仕組み、効果の見方等		芝田 稔子 氏 (株)湯浅コンサルティング コンサルタント	
	16:10-17:40	3. SCMの実務		実務におけるSCMの姿、SCMのモデル、SCMを的確に運用するための管理のあり方、SCMの課題等		荒木 協和 氏 神戸大学 大学院国際海事研究センターリサーチフェロー	

第9單元 (オンライン)		グローバルロジスティクス		市場のグローバル化が進展する中で、わが国企業が競争優位を確立するためには、グローバルレベルで最適なロジスティクスの構築が重要となります。本單元では、グローバルロジスティクスの概論、国際物流の基礎知識について学びます。			
日時		講義名称		講義内容		講師	
9月7日(月)	9:30-12:30	1. グローバルロジスティクス概論		国際間輸送の主要モード、海上輸送・インターモダル輸送における輸出入諸手続き等		田阪 幹雄 氏 (株)INX総合研究所 リサーチフェロー	

第10單元 (オンライン)		グリーンロジスティクス		本單元では、ロジスティクス分野における環境問題を俯瞰し、法制度や行政の動向、環境負荷低減方策等包括的に学びます。			
日時		講義名称		講義内容		講師	
9月7日(月)	13:30-15:00	1. グリーンロジスティクス概論①		物流と環境問題の関係、行政施策の紹介、企業における環境問題への取り組み、環境問題への取り組み段階等		矢野 裕児 氏 流通経済大学 流通情報学部 教授	
	15:10-17:00	2. グリーンロジスティクス概論②		環境問題と環境負荷指標、物流分野の環境対策、取り組み・連携事例の紹介等		北條 英 氏 日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所 所長	
	17:00-17:20	振り返りと意見交換 <第8・9・10單元>					

第11單元 (オンライン)		物流アウトソーシングと3PL		物流・ロジスティクス関連業務のアウトソーシング化が進む中で、最適なロジスティクスの構築・運用を図るためには、企業間の連携が重要です。本單元では、物流アウトソーシングの目的、3PL企業の役割及び契約のポイント等について学びます。			
日時		講義名称		講義内容		講師	
9月15日(火)	9:30-17:00	1. 物流アウトソーシング、3PL		物流アウトソーシングの目的、3PLとは、アウトソーシングと3PL、3PLプロバイダーの特徴等		吉原 和彦 氏 (株)ロジスティクス・サポート&パートナーズ 代表取締役	
		2. 3PLと契約		契約の重要性、委託側・受託側のポイント、RFP、契約書の内容、サービス保証等			
	17:00-17:20	論文の提出に関する説明		提出前のチェック項目、提出要領等を説明します		事務局	

第12單元 (オンライン)		ロジスティクスの社会的役割		ロジスティクスは経営活動や国民生活を支える社会基盤としての役割も担います。本單元では、それらと密接に関連するCSR、標準化及び行政の動向について学びます。			
日時		講義名称		講義内容		講師	
9月16日(水)	9:30-14:10	1. CSR		CSRとは、物流関連法規・下請法・独禁法・労働者派遣法等の説明、危機管理とリスクマネジメント、安全・衛生管理、災害とロジスティクス、BCPとは、BCP策定のポイント等		長谷川 雅行 氏 一般社団法人日本物流資格士会 顧問	
	14:20-15:30	2. 標準化		標準化の意義と方法、JISと標準化、国際標準化の問題点・課題・対策、ユニットロードシステム、標準化の新たな取り組み等			
	15:40-17:10	3. 行政の動向		物流と取り巻く現状、総合物流施策大綱、物流政策の紹介等			
	17:10-17:30	振り返りと意見交換 <第11・12單元>					

第13単元 (集合研修)		総合演習Ⅱ		架空の3PL 会社の担当者の立場となって、赤字を出している受託現場の改革を行いません。講座で学んだ知識や技法を活用して、さまざまなアプローチから検討をすることで、この講座の受講成果を測ります。		会場：タイム24ビル (東京都江東区)	
日時		講義名称		講義内容		講師	
10月7日(水)	9:30-10:30	後期客観試験		後半講義 (第7～第12単元) の講義の理解度を確認します		事務局	
	11:00-17:00	グループ演習 物流改革演習		架空企業の担当者の立場となって、赤字を出している現場の改革を行います		(株)ロジスティクス・サポート & パートナース	
10月8日(木)	9:30-17:00						
	17:00-17:20	振り返りと意見交換 (第13単元)					

面接試験		11月14日(土)	10:00-17:00	1名 15分程度の面接
資格認定証授与式・懇親会		2027年 1月15日(金)	15:00-17:00	資格認定証の授与 等

2025年度(オンライン+集合開催)受講者の声

- 講義については初めて聞く項目も多く、大変参考になった。特に設計段階からのDFL (Design for Logistics) の考え方については積載効率を向上させるためにも今後、注力していきたい。(製造業)
- 受講期間中は業務との両立、レポート・論文の作成等大変だったが、終わってみたら非常に成長できた期間だったと思う。特に他業種の方々とコミュニケーションを取れたことで得られた情報が一番の学びであった。(流通業)
- 本講座は、長時間のオンライン講座、集合形式での講座、グループワークと大変な内容ではあったが、どれも知識の幅がひろがる有益な内容の講義であった。間違いなく自分自身のレベルアップに繋がったと思うので、今後は得られた知識、技法を用いて業務に活かしていきたい。(物流業)
- 受講中は学ぶことが多く大変だったが、学んだ内容を業務に反映・実践することで着実に身につけていると実感できたことがとてもうれしく感じた。学んだことを学んだ以上に活用できるよう実践を通じて、新規顧客への物流提案ならびに既存顧客への物流改善提案を行ってきたい。(物流業)

本講座に関する以下の情報をWEBに掲載しています。

・2025年度「物流技術管理士」受講企業一覧 ・「物流技術管理士」資格取得者からのメッセージ
 ※2025年度受講者：328名(160社) ・講座での成果(優秀論文)のご紹介 など

www.1.logistics.or.jp または「JILS」で検索

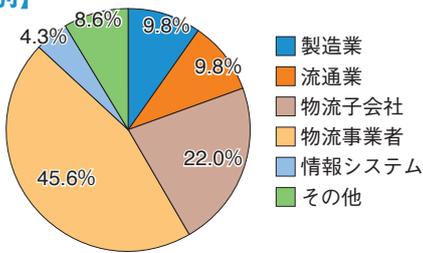
HOME → イベント・講習会・交流会 → 教育研修 → 講座・コース

物流技術管理士専門委員会 委員一覧 (2026年2月現在。順不同、敬称略)

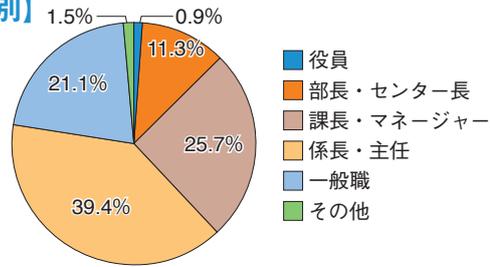
委員長 渡邊 一衛 成蹊大学 名誉教授	委員 上野 善明 (株)セイノー情報サービス 理事
副委員長 小野 義 ロジ企画ONO 代表	事業開発室 担当部長
副委員長 右田 政三 (株)ヨコエタープライズ 顧問	委員 鈴木 三弘 サクラボックス(株) 物流部 部長
委員 坏 信明 プラスロジスティクス(株) 営業企画部 部長	委員 丹下 博文 企業経営総合研究所 代表
委員 興村 徹 (公社)日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー	委員 辻 公 (公社)日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー
委員 上村 聖 城西大学 経営学部 経営学研究科 教授	委員 津田 博 元 近畿大学 経営学部 教授
委員 黒坂 真一 (株)ヤマタネロジスティクス シニアコンサルタント	委員 牧 克行 (公社)日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー
委員 酒井 路朗 エルディンシー 研究所 所長	委員 秋田 直也 神戸大学 大学院 海事科学研究科 准教授
委員 富計 かおり VCL (株) 代表取締役社長	委員 泉 康一 (株)山星屋 物流システム部 部長
委員 丸山 正晃 元 KPMG コンサルティング(株) パートナー	委員 佐久間 慎二 (公社)日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー
委員 村田 信之 明治ロジテック(株) 代表取締役社長	委員 寺内 石一 (株)フリーロケーション 代表取締役
委員 矢野 裕児 流通経済大学 流通情報学部 教授	委員 花田 克也 (公社)日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー
委員 山田 登 海外調達支援&物流改革研究所 所長	委員 浜崎 章洋 大阪産業大学 経営学部 商学科 教授
委員 山根 六三郎 シンク・テック・サービス(株) 代表取締役	委員 深澤 一紀 (株)サーガ 代表取締役
委員 湯浅 和夫 (株)湯浅コンサルティング 代表取締役社長	委員 三村 光昭 OfficeMIMURA 代表
委員 吉原 和彦 (株)ロジスティクス・サポート&パートナーズ 代表取締役	
委員 秋葉 淳一 (株)フレームワークス 会長	

2025年度受講者データ(受講者数:328名)

【業種別】



【役職別】



受講申込規程

受講料 ※ご入会につきましては、お申し込み前に事務局までお問い合わせください。

日本ロジスティクスシステム協会会員	受講料 550,000円 (税込/1名)
上記会員外	受講料 660,000円 (税込/1名)

- 有資格者優待**：当協会の認定する下記資格を持つ方は優待料金にて受講いただけます。該当する方は受講申込書の有資格欄に資格名称をご記載ください。(対象:物流技術管理士補、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流現場改善士)
- ◆日本ロジスティクスシステム協会会員 …………… 受講料484,000円(税込/1名)
 - ◆上記会員外 …………… 受講料605,000円(税込/1名)

受講料に含まれるもの

- テキスト、資料代
- 審査料

受講対象

- 以下の①もしくは②のどちらか一方の要件を満たしていること
- ①物流に関する実務経験を1年以上有し、かつ物流に関する基本的な用語を理解していること。
 - ②物流技術管理士補の有資格者

※受講お申込みの際に受講者様の実務経験等に関する情報をお知らせいただきます。その内容が上記受講対象の要件を満たしていない場合は受講をお断りすることがございます。あらかじめご承知おきいただき、お申し込みください。

受講定員 140名

受講申込方法

- WEBで受け付けています。
当協会ホームページの本プログラムのページよりお申し込みください。
[HOME] → [イベント・講習会・交流会] → [教育研修] → [講座・コース]
- ※WEBでのお申込ができない場合は、「プログラム内容の問い合わせ先」に記載のメールアドレス宛にご連絡ください。
- ※当協会のホームページは www1.logistics.or.jp または「JILS」で検索してください。
- ※QRコード読み取り機能のあるスマートフォン等をお持ちの方は右記QRコードを読み込みアクセスすることもできます。
- ※QRコードは画面の傷、汚れ、光の反射等によって読み取れない場合があります。
- ※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



個人情報の取り扱いについて

日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。
詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。
なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本講座に関する確認・連絡・受講者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内にお送りする際に利用させていただきます。

事前に必ず以下をご確認ください。

- 以下の事項の内容をお読みいただき、内容についてご理解、ご承諾のうえお申し込みください。
- 本講座の録画、録音、撮影は禁止します。
 - 受講者により運営を妨げるおそれのある行為がある場合、対象者の受講を中止させることがあります。
 - テキストは受講申込時にご登録いただきました住所宛に郵送いたします。事務局による郵送物の到着確認後のテキスト再発行は行いません。
<Microsoft office について>
 - 演習にてMicrosoft officeのExcelやPowerPointを使用します。これらのアプリケーションを利用できるデバイス、環境にて受講ください。
<講義会場について>
- 講義会場の詳細は、ご受講お申し込み後にご案内いたします。予めご了承ください。

受講料お支払い方法

- 【受講料支払い方法】**
- WEB請求書で請求いたします。
 - WEB請求書は原則として派遣責任者のE-mail宛に送付いたします。それ以外をご希望の方は、協会への連絡事項欄にご指示ください。
 - 振込手数料は、お客様にてご負担願います。
- 【お願い】**
- 受講予定の方のご都合が悪い場合は、全単元を代理の方がご受講ください。なお、代理の方のご受講も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。
- (注) 参加申込をキャンセルする場合は、事前にプログラム内容の問い合わせ先にお申し出ください。
- 【キャンセル規定】**
- | | |
|--------------------------|---------------|
| 開催30日前～15日前(開催日初日を含まず起算) | …………… 受講料の10% |
| 開催14日前～8日前 | …………… 受講料の20% |
| 開催7日前～前々日 | …………… 受講料の30% |
| 開催前日および当日 | …………… 受講料の全額 |
- ※キャンセル料は原則として消費税を除く受講料をもとに計算

受講申込先・プログラム内容の問い合わせ先

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所
〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディアム3階
E-mail: clm@logistics.or.jp